

命を繋ぐ動物達のリレー

一年 保坂真緒

私の家には、九匹の猫がいます。猫を飼う前に私は、犬を飼っていました。でも、猫も飼いたくなくて猫も飼った次の日に犬は、死んでしまいました。元から弱かったけど、猫を飼ってすぐ死んでしまうなんて。私は、お別れがちゃんとできなくて心の底から悔しかったし悲しかったです。

私は、もう二度とお別れできずにバイバイは絶対にいやだと思いました。

ある日、猫をだっこした時、なんかしつぽらへんが冷たく感じたので、母に報告をしました。それを聞いた母は、急いでダンボールともうふをして、タオルを持ってきました。

ダンボールの中に猫を入れた母は、

「頑張れ！頑張れ！」とエールをずっと送っていました。私は、母が何をしているのか全然分からなかったけど、私も母につられて、猫に沢山エールを送りました。

そうしたら、小さな生き物がでてきたのを見て、私はびっくりして声も出ませんでした。でも、母は私とちがってその小さい生き物をタオルで持って、私に近づいて、

「可愛いでしょ。これは、猫の赤ちゃんだよ。」と言ったのが聞えました。私は感動しました。猫も、命を

繋ぐことができるんだなと思いました。その時生まれた猫の数は四匹でした。

私は、絶対大切にしようと思いました。

一年くらいたったある朝、起きたら母に

「猫の赤ちゃん生まれたよ！」と言われました。私は、それを聞いて「えっ？」と思いました。ダンボールをのぞいて見ると箱の中に可愛らしい子猫が五匹いました。私は、また命が繋がれたことに、うれしがっていたら、母は悲しそうに口を開きました。

「前に生まれてきた猫ちゃんと今回生まれてきた赤ちゃんを、全部育てると猫ちゃん十一匹になってめんどろを見るのが大変じゃん？だから私のお友達に猫がほしいってってる人が何人かいるの。だからその人達にあげるようになったの。」と言われました。私は悲しくなったが母の言っていることは間違えてはないと思い、私はしぶしぶでしたが猫をあげることに了解してしまいました。

私は子猫をあげる時に「もしも」のことを考えてしまった。「もしもこの子が捨てられたらどうしよう。」「もしもこの子が虐待にあつたらどうしよう。」「と頭に浮かんでしまえば、気持ちにはなれませんでした。でも、あげるしかなかったの。私は、「しょうがない。この子の人生なんだ。」と何度も心の中で唱えました。でも悲しかった私は飼ってくれる人に、「大切に育てて命を繋いでください。」と言った。そして、すっきりした気持ちで猫に「バイバイ！」と言った。私はバイバイと言えたことがうれしかったです。

私は、猫にも犬にも命を繋ぐリレーができるとして本当に、よかったです。